

憎悪の連鎖を止めるには

イスラエルとハマスの衝突は、戦争は、パレスチナを支援するア
 き差しないところに来た。イ
 スラエルとイスラエルの戦いであ
 った。イスラエルは強力であり、結
 果的にはヨルダン川西岸やガザの
 地を占領するに至った。1993
 年のオスロ合意は基本的にイスラ
 エルとパレスチナの二国家共存へ
 の方向性を示し、イスラエルは占
 領地より撤退した。しかしその後
 もイスラム過激派ハマスが台頭し
 自爆テロを繰り返して、イスラエル
 もパレスチナ自治区への空爆や軍
 事侵攻を繰り返した。ガザを実効
 支配するハマスとイスラエルは恒
 常的な戦争状態にあった。イスラ
 エル寄りには大きく舵を切ったのは
 トランプ政権だった。米国はエル
 サレムを首都と認知し大使館を移
 転、アブラハム合意によりイスラ
 エルとアラブ諸国の国交正常化を
 促進し、オスロ合意の二国家共存
 の基盤が損なわれたとハマスは考
 えたのだろう。サウジアラビアと
 の正常化も近いと言われていた。
 筆者は10年ほど前、パレスチナ
 の地へ赴き、パレスチナ自治区に
 ある大学で講演をした。それは実
 に不思議な体験だった。知性豊か
 で真つ青な目をした学生たちの闊
 達な議論の一方で、檻に入れられ
 ているという鬱積した不自由さが
 感じられた。同じ青い空が広がっ
 てもイスラエル側に、そして
 自由な世界に出ることがかなわな
 い。すぐそばにイスラエルの検問
 所があったが、若い兵士が高齢な
 パレスチナ人を極めて傲慢な態度
 で徹底的にチェックする。ガザの
 周辺は高い塀でおおわれ、電気・
 ガス・水道といった生活インフラ
 も、食料の供給もイスラエルに握
 られた封鎖生活。ハマスがパレス
 チナ自治政府の選挙で支持を受け
 たのはイスラエル憎しの心の叫び
 なのだろう。

パレスチナの地におけるイスラ
 エルの建国には深刻な迫害を受け
 たユダヤ人の生存権を確保すると
 いう高い目的があったにせよ、パ
 レスチナ人には自分の土地を分断
 されたという憤怒の気持ちが蓄積
 した。その後、四次にわたる中東
 戦、アブラハム合意によりイスラ

ウェーブ 時評 wave



田中 均

たなか・ひとし 69年京大法卒。外務省経済局長、
 アジア大洋州局長、外務審議官を経て(株)日本総
 研国際戦略研究所理事長を経て特別顧問、(公財)
 日本国際交流センターシニア・フェロー。

エルとアラブ諸国の国交正常化を
 促進し、オスロ合意の二国家共存
 の基盤が損なわれたとハマスは考
 えたのだろう。サウジアラビアと
 の正常化も近いと言われていた。
 筆者は10年ほど前、パレスチナ
 の地へ赴き、パレスチナ自治区に
 ある大学で講演をした。それは実
 に不思議な体験だった。知性豊か
 で真つ青な目をした学生たちの闊
 達な議論の一方で、檻に入れられ
 ているという鬱積した不自由さが
 感じられた。同じ青い空が広がっ
 てもイスラエル側に、そして
 自由な世界に出ることがかなわな
 い。すぐそばにイスラエルの検問
 所があったが、若い兵士が高齢な
 パレスチナ人を極めて傲慢な態度
 で徹底的にチェックする。ガザの
 周辺は高い塀でおおわれ、電気・
 ガス・水道といった生活インフラ
 も、食料の供給もイスラエルに握
 られた封鎖生活。ハマスがパレス
 チナ自治政府の選挙で支持を受け
 たのはイスラエル憎しの心の叫び
 なのだろう。

イスラエルはハマスを根絶する
 というが、住民の間に入りこみ総
 延長500キロと言われるトンネ
 ルに身を潜めるハマス部隊を駆逐
 止めることができるのか。

するのは簡単ではない。長い時間
 がかかり、血で血を洗う壮絶な戦
 いとなり、数多くの住民の犠牲も
 避けられないだろう。そうするう
 ちに融和の道を進み始めた中東に
 再び分断の時代が来る。欧州や米
 国ではイスラム系住民とユダヤ人
 の衝突が起きるのだろうし、テロ
 が頻発する可能性も高い。

国際社会はこのような憎悪の連
 鎖を止めなければならない。米国
 はロシアのウクライナ侵攻を止め
 ることができなかった。20年の
 東での戦争で米国は疲弊し、再度
 海外で戦争に関わりたとは思わ
 ないのは十分理解できるし、大量
 の核を持ったロシアと正面切って
 戦争をするわけにはいかない。し
 かしイスラエルは米国の同盟国で
 あり、国連安保理の決議でも拒否
 権を行使することによりイスラエ
 ルを守る姿勢を明確にできてい
 る。米国はそういうイスラエルを